

| | | | |
|-----|-----|----|-----|
| 教科名 | 音楽科 | 校種 | 中学校 |
|-----|-----|----|-----|

| 科 目 の 配 当 | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|--------------|
| 学年 | 科目名 | 必・選 | 単位 | 授業展開など、授業の形態 |
| 1年 | 音楽 | 必 | 1.5 | E |
| | 音楽 | 必 | 1.5 | A |
| 2年 | 音楽 | 必 | 1 | AE |
| | 音楽 | 必 | 1 | AG |
| 3年 | 音楽 | 必 | 1 | AE |
| | 音楽 | 必 | 1 | AG |

| | | | | |
|----------|----------------|-----|-----|---------------------|
| 科目名(教科名) | 音楽 (音楽科) | | | |
| 担当教員 | 金 智熙 Sr. MarJo | | | |
| 学年 | 1 | 単位数 | 1.5 | 必修・選択・展開 必修 Eコース |

■ 授業の目的

*英語によるイメージ授業を取り入れ、コミュニケーションとしての英語力を身につける。

1. 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
2. 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。
3. 幅広いジャンルの作品に接し、主体的に鑑賞する能力を育てる。

■ 授業計画

| 学 期 | 授 業 の 項 目 | 内 容 |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | ○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・合唱 ○祈りのこころ・聖歌 | <ul style="list-style-type: none"> ・発声・呼吸のしきみ ・合唱によるそれぞれの声部の特徴や役割に応じた表現 ・豊かな情操と、他者を思いやる心を育てる ・指揮法・伴奏法の習得 ・聖歌による歌唱表現と祈りの心を育てる |
| 2 学 期 | ○さまざまな音楽文化 サウンドオブミュージック ○器楽(アルトリコーダー) ○楽典 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚やリズム、旋律との関わりを感じ取る ・英語の歌詞の内容を理解した歌唱との確な発音の習得 ・基礎的な奏法 ・基礎的な知識の学習(音名・階名・音符と休符・用語と記号) |
| 3 学 期 | ○日本の文化 鑑賞・器楽(邦楽:六段の調・箏) 日本歌曲 ○くらしと音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・和楽器(箏)の基本奏法 ・邦楽による国際交流の体験 ・日本語の美しい響きを生かした表現 ・音楽著作権とインターネットについて |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 表現の創意工夫 表現の技能 鑑賞の能力 | 音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら解釈をしたり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する |
| 評価の方法と割合 | ●評価方法: 定期試験(実技試験・学期末筆記試験は日本語と英語で出題する)と平常点(提出物・小テスト等)により各学期の成績を算出する ●割合: 定期試験: 70% 平常点: 30% | |
| 教科書・副教材等 | ●教科書: 中学音楽1「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材: 「聖歌集」「英訳プリント(音楽のおくりもの 他)」 | |

| | | | | | |
|----------|------------|-----|-----|----------|---------|
| 科目名(教科名) | 音楽 (音楽科) | | | | |
| 担当教員 | 金 智熙 | | | | |
| 学年 | 1 | 単位数 | 1.5 | 必修・選択・展開 | 必修 Aコース |

■ 授業の目的

1. 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
2. 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。
3. 幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

■ 授業計画

| 学 期 | 授 業 の 項 目 | | 内 容 | | |
|----------|--|--|--|--|--|
| 1 学期 | ○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・合唱 ○祈りのこころ・聖歌 ○楽典 | | <ul style="list-style-type: none"> ・発声・呼吸のしくみ ・合唱によるそれぞれの声部の特徴や役割に応じた表現 ・豊かな情操と、他者を思いやる心を育てる ・指揮法・伴奏法の習得 ・聖歌による歌唱表現と祈りの心を育てる ・基礎的な知識の学習（音名・階名・音符と休符・用語と記号） | | |
| 2 学期 | ○さまざまな音楽文化 日本語の抑揚・響きを大切にした 歌唱 ○創作 ○器楽（アルトリコーダー） | | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚やリズム、旋律との関わりを感じ取る ・日本語の美しい響きを生かした表現 ・リズム曲の創作 ・ボディパーカッション ・基礎的な奏法 | | |
| 3 学期 | ○鑑賞（邦楽：六段の調） ○器楽（邦楽：箏） ○くらしと音楽 | | <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・和楽器の音色・音階・奏法の特徴を体感する ・和楽器（箏）の基本奏法 ・音楽著作権とインターネットについて | | |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする | | | |
| | 表現の創意工夫 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている | | | |
| | 表現の技能 | 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している | | | |
| | 鑑賞の能力 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら解釈をしたり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する | | | |
| 評価の方法と割合 | <ul style="list-style-type: none"> ●評価方法：定期試験（実技試験・学期末筆記試験）と平常点（提出物・小テスト等）により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70% 平常点：30% | | | | |
| 教科書・副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 中学音楽1「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材：「聖歌集」 | | | | |

| | | | | | |
|----------|----------------|-----|---|----------|----------|
| 科目名(教科名) | 音楽 (音楽科) | | | | |
| 担当教員 | 金 智熙 Sr. MarJo | | | | |
| 学年 | 2 | 単位数 | 1 | 必修・選択・展開 | 必修 AEコース |

■ 授業の目的

*英語によるイメージ授業を取り入れ、コミュニケーションとしての英語力を身につける。

1. 楽しく意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付け、音や音楽に対する興味、関心を深める。
2. 表現したいイメージや曲想を持ち、基礎的な表現の技能を身に付け、創造性を養う。
3. 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

■ 授業計画

| 学 期 | 授 業 の 項 目 | | 内 容 |
|------------------|--|--|---|
| 1 学 期 | ○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・合唱 | | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな響き、英語の歌唱にあつた発声法の取得 ・合唱によるそれぞれの声部の特徴や役割に応じた表現 ・旋律の重なり方や和音の響きを生かしたアンサンブル ・指揮法・伴奏法の習得 |
| | ○楽典・ソルフェージュ | | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号) |
| 2 学 期 | ○さまざまな音楽文化 日本の歌 (浜辺の歌) 外国の歌 (Amazing grace) | | <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞が表す情景の表現と比較 ・歌詞と旋律・ピアノ伴奏の関わりと効果の体感 ・英語の歌詞の内容を理解した歌唱との確な発音の習得 ・拍子や速度、曲の形式を生かした歌唱表現 |
| | ○鑑賞 (オーケストラ) | | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の構成の仕方や形式を理解した鑑賞 |
| 3 学 期 | ○音楽とくらし 鑑賞 (雅楽:越天楽) | | <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・雅楽の特徴や表現の理解 (海外の人に雅楽を説明) |
| | ○言葉と旋律のかかわり (日本:早春賦) | | <ul style="list-style-type: none"> ・旋律のまとまりや強弱を生かした歌唱 ・歌詞の内容を味わい、形式を理解した表現 |
| | ○くらしと音楽 | | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽著作権とインターネットについて |
| 評価の 観点 | 関心・意 欲・態 度 | 音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする | |
| | 表現の創意 工夫 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている | |
| | 表現の技能 | 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している | |
| | 鑑賞の能力 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら解釈をしたり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する | |
| 評価の 方法と 割合 | ●評価方法: 定期試験 (実技試験・学期末筆記試験は日本語と英語で出題する) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する ●割合 : 定期試験: 70% 平常点: 30% | | |
| 教科書・ 副教材等 | ●教科書: 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽 「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材: 「聖歌集」 | | |

| | | | | |
|----------|------------|-----|---|----------------------|
| 科目名(教科名) | 音楽 (音楽科) | | | |
| 担当教員 | 金 智熙 | | | |
| 学年 | 2 | 単位数 | 1 | 必修・選択・展開 必修 AGコース |

■ 授業の目的

1. 楽しく意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付け、音や音楽に対する興味、関心を深める。
2. 表現したいイメージや曲想を持ち、基礎的な表現の技能を身に付け、創造性を養う。
3. 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

■ 授業計画

| 学期 | 授業の項目 | 内容 |
|----------|---|---|
| 1学期 | ○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・合唱 ○鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな響きのための発声法 ・合唱によるそれぞれの声部の特徴や役割に応じた表現 ・旋律の重なり方や和音の響きを生かしたアンサンブル ・指揮法・伴奏法の習得 ・音楽の構成の仕方や形式を理解した鑑賞 |
| 2学期 | ○さまざまな音楽文化 日本の歌 (浜辺の歌) ○楽典・ソルフェージュ | <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞が表す情景の表現と曲の背景の考察 ・拍子や速度、ピアノ伴奏の関わり、曲の形式を生かした歌唱表現 ・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号) ・表現や鑑賞の音楽活動に生かす |
| 3学期 | ○音楽 (邦楽) とくらし 鑑賞 (雅楽: 越天楽) ○言葉と旋律のかかわり (早春賦) ○くらしと音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・速度や旋律、強弱などの特徴の聞き取りと、全体の構成の確認 ・雅楽の特徴や表現の理解 ・歌詞の内容を味わい、形式を理解した表現 ・音楽著作権とインターネットについて |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 表現の創意工夫 表現の技能 鑑賞の能力 | <p>音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする</p> <p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている</p> <p>創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している</p> <p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら解釈をしたり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する</p> |
| 評価の方法と割合 | <ul style="list-style-type: none"> ●評価方法: 定期試験 (実技試験・学期末筆記試験) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する。 ●割合 : 定期試験: 70% 平常点: 30% | |
| 教科書・副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ●教科書: 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材: 「聖歌集」 | |

| | | | | | |
|----------|----------------|-----|---|----------|----------|
| 科目名(教科名) | 音楽 (音楽科) | | | | |
| 担当教員 | 金 智熙 Sr. MarJo | | | | |
| 学年 | 3 | 単位数 | 1 | 必修・選択・展開 | 必修 AEコース |

■ 授業の目的

*英語によるイメージ授業を取り入れ、コミュニケーションとしての英語力を身につける。

1. 自主的に音楽活動に取り組み、音や音楽、多種多様な言語への興味・感心を高め、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
2. 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高め、創造性を養う。
3. 音楽文化についてその歴史的・文化的な意味と価値を理解し、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

■ 授業計画

| 学期 | 授業の項目 | | 内容 | | |
|---|--|--|---|--|--|
| 1 学期 | ○発声・合唱 | | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな響き、英語の歌唱にあつた発声法の取得 ・言葉と旋律・ピアノ伴奏の関わりと効果の体感 ・指揮法・伴奏法の習得 | | |
| | ○楽典・ソルフェージュ | | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の学習（各国の音名・階名・音符と休符・用語と記号）を、表現や鑑賞の音楽活動に生かす | | |
| 2 学期 | ○さまざまな音楽文化 沖縄の音楽 | | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の歴史、文化、楽器、音楽の総合的学習 ・平和の尊さ、心の結び合いの素晴らしさについて考える | | |
| | 外国の歌 (帰れソレントへ) (Top of the world) | | <ul style="list-style-type: none"> ・英語とイタリア語の響きの違いを意識した歌唱 ・曲種に応じた歌唱の習得 ・気候風土、気質による各国の音楽特性の比較 | | |
| 3 学期 | ○音楽とくらし 鑑賞（オーケストラ・海外伝統音楽） | | <ul style="list-style-type: none"> ・独奏楽器とオーケストラの関係を理解する ・独奏楽器の音色や奏法の特徴を聴き取る | | |
| | ○歌唱（カントリー・ロード） | | <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に自己の想いを込め、速度、強弱の変化を生かした表現 | | |
| ○くらしと音楽 | | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽著作権とインターネットについて | | | |
| 評価の 観点 | 関心・意 欲・態度 | 音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする | | | |
| | 表現の創意 工夫 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている | | | |
| | 表現の技能 | 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している | | | |
| | 鑑賞の能力 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら解釈をしたり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する | | | |
| 評価の 方法と 割合 | <ul style="list-style-type: none"> ●評価方法：定期試験（実技試験・学期末筆記試験は日本語と英語で出題する）と平常点（提出物・小テスト等）により各学期の成績を算出する。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●割合：定期試験：70% 平常点：30% | | | | |
| 教科書・ 副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●副教材： 中学器楽 「音楽のおくりもの」教育出版 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●副教材： 「聖歌集」 | | | | | |

| | | | | | |
|----------|------------|-----|---|----------|----------|
| 科目名(教科名) | 音楽 (音楽科) | | | | |
| 担当教員 | 金 智熙 | | | | |
| 学年 | 3 | 単位数 | 1 | 必修・選択・展開 | 必修 AGコース |

■ 授業の目的

1. 自主的に音楽活動に取り組み、音や音楽、多種多様な言語への興味・感心を高め、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
2. 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高め、創造性を養う。
3. 音楽文化についてその歴史的・文化的な意味と価値を理解し、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

■ 授業計画

| 学 期 | 授 業 の 項 目 | | 内 容 | | |
|------------------|---|--|--|--|--|
| 1 学 期 | ○発声・合唱 ○楽典・ソルフェージュ | | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな響きのための発声法と発表による音楽表現の積極性 ・言葉と旋律・ピアノ伴奏の関わりと効果の体感 ・指揮法・伴奏法の習得 ・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号) ・表現や鑑賞の音楽活動に生かす | | |
| 2 学 期 | ○邦楽-沖縄の音楽にふれる 歌唱・楽器・創作 ○曲想の変化を生かした歌唱 イタリア歌曲 (帰れソレントへ) ○創作 | | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の歴史、文化、楽器、音楽の総合的学習 ・平和の尊さ、心の結び合いの素晴らしさについて考える ・曲種に応じた歌唱の習得 ・気候風土、民族楽器、気質による各国の音楽特性の比較 ・イタリアの歴史、文化、音楽の総合的学習 ・作詞作曲 | | |
| 3 学 期 | ○音楽とくらし 鑑賞 (オーケストラ) ○歌唱 ○くらしと音楽 | | <ul style="list-style-type: none"> ・独奏楽器とオーケストラの関係を理解する ・独奏楽器の音色や奏法の特徴を聴き取る ・歌詞に自己の想いを込め、速度、強弱の変化を生かした表現 ・音楽著作権とインターネットについて | | |
| 評価の 観点 | 関心・意 欲・態度 | 音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする | | | |
| | 表現の創意 工夫 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている | | | |
| | 表現の技能 | 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している | | | |
| | 鑑賞の能力 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら解釈をしたり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する | | | |
| 評価の 方法と 割合 | <ul style="list-style-type: none"> ●評価方法: 定期試験 (実技試験・学期末筆記試験) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する。 ●割合 : 定期試験 : 70% 平常点 : 30% | | | | |
| 教科書・ 副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ●教科書: 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽 「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材: 「聖歌集」 | | | | |